

## ☆聖書で祈る☆

ルカ 16： 8 「不正な管理人」のたとえ

8:主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。

ルカ 17： 7～10 「奉仕」

7:あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。8:むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。9:命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。10:あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。

ヨハネ 13： 12～17 「弟子の足を洗う」

12:さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。13:あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。14:ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。15:わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。16:はっきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさはりはない。17:このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

1ペトロ 4： 10～11 「神の恵みの善い管理者」

10:あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。11:語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。

## ▽参考資料▽

現代世界憲章 3 (人間に対する奉仕) 『現代世界憲章』 第3項

それゆえ、この公会議は人間の崇高な召命を宣言し、人間の中に神的な種子が置かれていることを肯定し、人間のこの召命に相応するすべての人の兄弟的一致を確立するために、教会の誠意に満ちた協力を人類にささげる。教会はけっして地上的野心によって動かされているのではない。教会の望むことはただ一つ、すなわち、真理を証明するために、裁くためではなく救うために、奉仕されるためではなく奉仕するために、この世に來たキリスト自身の仕事を、弁護者である霊の導きのもとに続けることである。

『和解とゆるし』 第12項

教会はそれ自体「聖であり、これを欠くことができない」存在なのですが、「日々清められ新たにされていき、ついにキリストがその教会をしみもしわもないものとして示される」まで前進しなければならないことの必要性を自覚しているのです。時として、教会を見る人の目には、「教会の素顔は十分に輝いていません。なぜなら、そこに罪があるからです。この証言は、教会に二つの基本的な側面があることを明らかにしています。その第一は、教会が愛の普遍的なしるしであるという側面です。イエス・キリストは、神の国に属していることの証拠として、そのあとに続く人たちに財産を残されました。それが教会です。第二は、教会が、まったく新しい回心と和解の表明者になるように、それを目指しているという側面です。それは、教会内でも、教会外でも、その緊張を克服し、互いにゆるし合い、兄弟的精神と世界に広がる平和を育てていくことによって達成されます。